



片瀬山防災だより

第14号:2011年11月

「ものをこわがらな過ぎたり、こわがり過ぎたりするのはやさしいが、正当にこわがることはなかなかむづかしいことだと思われた。」

物理学者 寺田寅彦 (1878-1935)

いつでも出来ると思って先延ばしにしていますか？

東日本大震災よりも前の資料になりますが、震災の非常食への備えをしている家庭が約半分、家具転倒防止など室内の備えをしている家庭も約半数ほどしかないとの統計があります。更にその両方をしている家庭は実は4分の1とのデータがあります。流石に3月の大震災以降は改めて備えをされている家庭は増えているものと思われませんが、今年の災害では大震災の津波、9月の台風と水害関連の被害がクローズアップされることとなり、室内防災に関しての拡充にどれほど影響があったのか？片瀬山地区でのデータはまだ我々も確認出来ておりません。もう一度、大きな揺れに遭遇した場合の状況をイメージして、寝室、リビング等家屋内で特に在居時間の長い部分の安全性に関して確認をしていただければと思います。家具を固定、安定させる用具は以前にも増して多くの種類が安価に入手出来るようになってきております。いつかそのうちと言わず、今度の休みにでも家具などの安全設置に取り組んでみては如何でしょうか。

日頃の訓練で！！

片瀬山幼稚園では、毎月避難訓練と称して子どもたちには、地震、火災、防犯を想定した訓練を行っています。地震を想定した場合は、非常ベルを鳴らしマイクを通じて地震を伝え、両手で頭を押さえて安全な中央に集まることをしています。地震は、必ず一度は揺れが治まるのでそれをみはからって防災ズキンをかぶり園庭に避難し、二人組になって第一避難場所である西公園に避難をします。(いよいよ幼稚園も危ないとなった場合は、第二避難所である片瀬中学校に避難をします)保護者には、一番小さい園児を優先にお迎えをお願いしてあります。幼稚園では、乾パン、水は子供たちの数だけは確保していますが、どのような状態になるのか予想もつきませんので、子どもたちには最低限の意識を持てるように日頃の訓練を通し体で知ってほしいと思っています。



[片瀬山幼稚園 園長 千葉 博子]

防災訓練・安否確認が開催されました

防災訓練が9月10日、片瀬中学校にて開催されました。4百人を超える住民の参加を得て、藤沢市災害対策課の方の講演、消防分団の方々による実演、並びに指導、非常食展



示試食などが短い時間ながら種々とり行われました。また同時に行われた安否確認では、一時避難所までの集合過程で丁目毎に独自の工夫が実施されました。いつ何時、天候等どんな状況の下で天災が発生するかわかりません。その中でいかに早く被害状況、要救援者を把握して近隣の力を借りて対応するかは減



(前頁より続く) 災の要となります。その中で、片瀬山二丁目で実施された、全戸に配布された安否確認札の掲示、近隣ネット協力者を通じての掲示情報の収集、一時避難所での住民マップを用いての情報の集約は非常に簡易でわかり易く、他の町内の方々の評価も高く、今後同様の取り組みが広く展開されるものと思われまます。



安全な水の保管に関して



愛知県の防災ページの記述の一部と水の保管に関して紹介させていただきます。

大地震にみまわれたとき、3日程度自力で持ちこたえれば、その間に救援が届き何とかなると言われています。では、どれくらいの水を用意すればいいのでしょうか。人が日常活動をするために1日に必要な水の量は一人あたり3リットルだと言われています。それを4人家族にあてはめて必要な水の量を計算すると、3リットル×4(人)×3(日)=36リットルとなります。これは、灯油などのポリタンク2個分に相当する量で、1戸建ての家ではそれほど邪魔にはならないでしょう。但し、飲料として使用するにあたってちょっとした注意が必要と云います…災害時に最も怖いのは、細菌などに汚染された水を飲んでおなかをこわすことです。ただでさえ体力を消耗する状況の中で、体調を崩して追い打ちをかけるような事態は避けたいものです。下痢を発症すると一日に3リットル以上の水分を喪失し高度の脱水に陥ることは希ではなく、衛生的な水が入手困難な開発途上国や医療体制が整っていない地域では脱水症状によって命を落とすことも少なくありません。よそ事ではなく、災害時には一時的に日本の何処もがこのような状況になる可能性があることを想定しておかなければなりません。ペットボトルに詰められたミネラルウォーターなどの飲料水は比較的安価に手に入ります。これらは、清浄な水源から取水された水が衛生的にボトル詰めされたものですので、備蓄するには適した水であると言えます。しかしながら、これらの多くは風味が損なわれるという理由で殺菌消毒が行なわれていませんので、記載されている賞味期限に注意する必要があります。同様に災害貯蔵用の飲料水であっても長めではありませんが消費期限があります。一時的には水道水を溜め置きされる方もいらっしゃるかもしれませんが、ここにも盲点があります。水道の蛇口に浄水器を備えている家庭が増えています。このような家庭用浄水器は、カルキ臭を取り除くものがありますがこれらは水道水中の殺菌成分をフィルタで取り除いてしまうことにもなります。よってそのままではあまり長時間の保存に向いているとは言い難いものがあります。

更に詳細は、愛知県衛生研究所 HP 記事: <http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/4f/jishin.html>

避難施設開設訓練

片瀬中学を避難施設として利用する片瀬山地区の自治会として、片瀬山連合自治会/防災会は来る11月26日土曜日9時～13時に、昨年と同様の避難施設開設訓練を実施します。この訓練は片瀬中学を避難施設として主に利用することになる片瀬山地区の自治会が運営のリーダーシップを取れるよう毎年の自治会役員と防災会幹事の参加を得て実施するものです。

編集後記:冒頭の言葉を残した寺田寛彦は『天災は忘れた頃にやってくる』というフレーズでも有名ですが、戦前に於ける防災の先駆者です。



発行:片瀬山防災会

連絡先:メール kataseyama.bosaikai@gmail.com

発行責任者:会長(佐藤) 編集責任者:広報(本澤)